2023年度第2四半期決算
および通期業績見通し

星光ＰＭＣ株式会社（東証プライム 4963）
2023年8月25日

本日のサマリー

事業環境　総じて**厳しい状況**が継続。

国産ナフサ高止まり

- 2021　4.2万円/kL(年平均)
- 2022　7.3万円/kL(年平均)
- 2023　6.9万円/kL(上期平均)

円安トレンドの継続

- 2021　110円/ドル(年平均)
- 2022　132円/ドル(年平均)
- 2023　135円/ドル(上期平均)

実質GDP低調

	日本	中国	米国	ﾕｰﾛ圏
2021	2.2	8.4	5.9	5.4
2022(推定)	1.0	3.0	2.1	3.5
2023(予測)	0.8	5.6	1.1	0.4

(前年からの成長率(%)、出典：世界銀行)

業績概要　**軟調な需要**により減収減益も、**第2四半期は売上・利益が回復傾向**。

売上高	153	億円（対前年▲3.8%）
営業利益	7.2	億円（対前年▲35.3%）
EBITDA*	15.0	億円（対前年▲14.4%）

* 営業利益＋減価償却費

- 国内外の軟調な需要に伴う販売数量の減少により、減収。
- 販売数量減や製造経費増により減益も、価格ギャップは改善。
- 営業利益減によりEBITDAも減少。

紙薬	市況悪化で国内苦戦も海外堅調。値上げ進展も寄与し、増収。利益はほぼ横ばい。
樹脂	国内外の市況悪化で減収減益。2Qより中国・台湾の粘着剤需要が復調。
化成品	海外の市況悪化で減収減益。1Q後半から中国は回復傾向。設備投資進展。

通期見通し　国内や中国・アジアの**需要回復を適確に捉え計画達成**を目指す。

売上高	352	億円（対前年＋8.8%）
営業利益	20.1	億円（対前年＋6.7%）
EBITDA	39.3	億円（対前年＋18.4%）

- 国内や中国・アジアでの事業環境の回復を見込む。
- 引き続き需要回復を適確に捉えることで販売数量を増加させ、計画達成を目指す。

重点施策

紙薬	中国・東南アジア向けマーケティング・営業活動強化
樹脂	中国での粘着剤の拡販強化。製品ポートフォリオ変革
化成品	機能性モノマーやアミド溶剤の拡販強化

目次

Ⅰ 2023年度第2四半期決算(連結)

Ⅱ 事業別動向

Ⅲ 2023年度通期業績見通し(連結)

Ⅳ 中期経営計画「OPEN 2024」のトピックス

✧ Appendix

Ⅰ.2023年度第2四半期決算（連結） 概況

（百万円）	2022年度	2023年度		
	上期実績	上期実績	増減	増減率
売上高	15,938	15,328	▲609	▲3.8%
営業利益	1,120	724	▲396	▲35.3%
営業利益率	7.0%	4.7%	―	―
経常利益	1,745	1,219	▲525	▲30.1%
当期純利益*1	1,306	941	▲364	▲27.9%
減価償却費	635	778	＋143	＋22.6%
EBITDA	1,755	1,503	▲252	▲14.4%

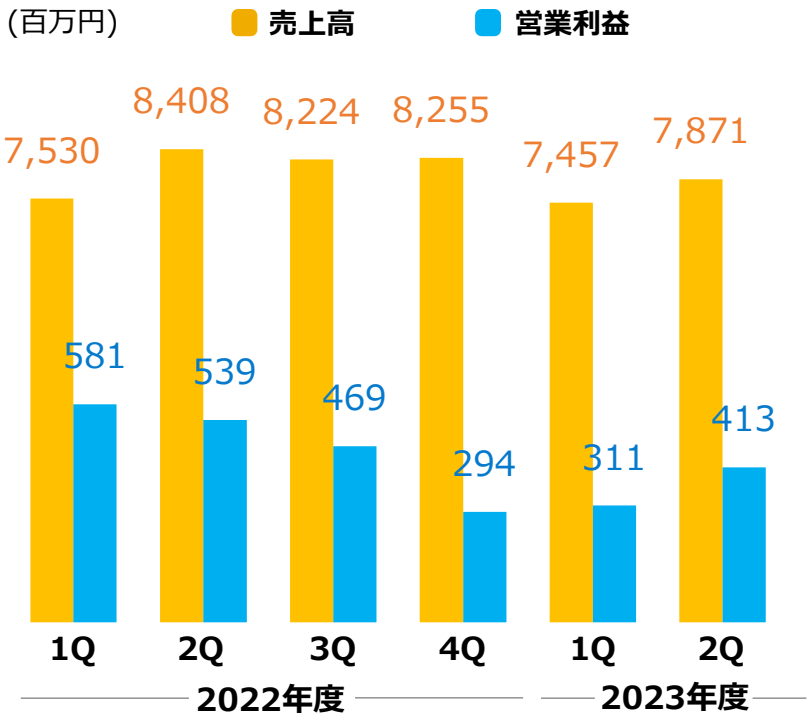
*1 親会社株主に帰属する当期純利益

売上高　：国内外の**軟調な需要環境**に伴う**販売数量の減少**により、減収。

営業利益：**販売数量減**およびベトナム工場の**減価償却費増**に伴う製造経費増が響き減益も、**原料価格上昇に対応した製品価格の値上げ**は進捗。

経常利益および純利益：
グループ内貸付金の評価替えなどによる**為替評価益**3.6億円があったものの、減益。

EBITDA：営業利益減が響き減少。



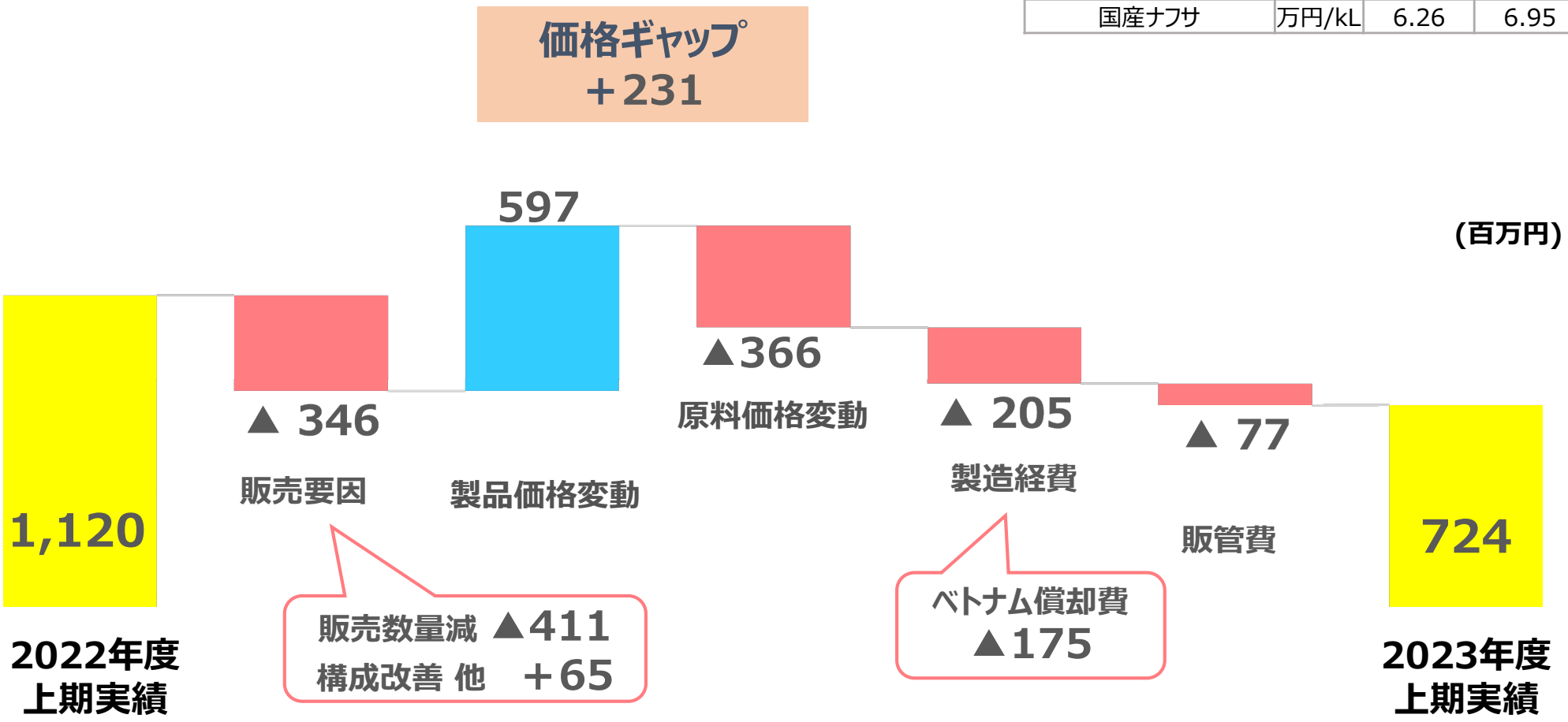
Ⅰ.2023年度第2四半期決算（連結）営業利益増減分析

販売数量の減少（国内印刷インキ市場の縮小継続による**印刷インキ用樹脂の需要減**、海外での景気減速による**粘着剤や化成品の需要減**）、およびベトナム工場の本格稼働に伴う**減価償却費増**等により減益。遅れていた**原燃料価格上昇分の製品価格への転嫁が進展**し**価格ギャップがプラス**に。

営業利益　**724百万円**

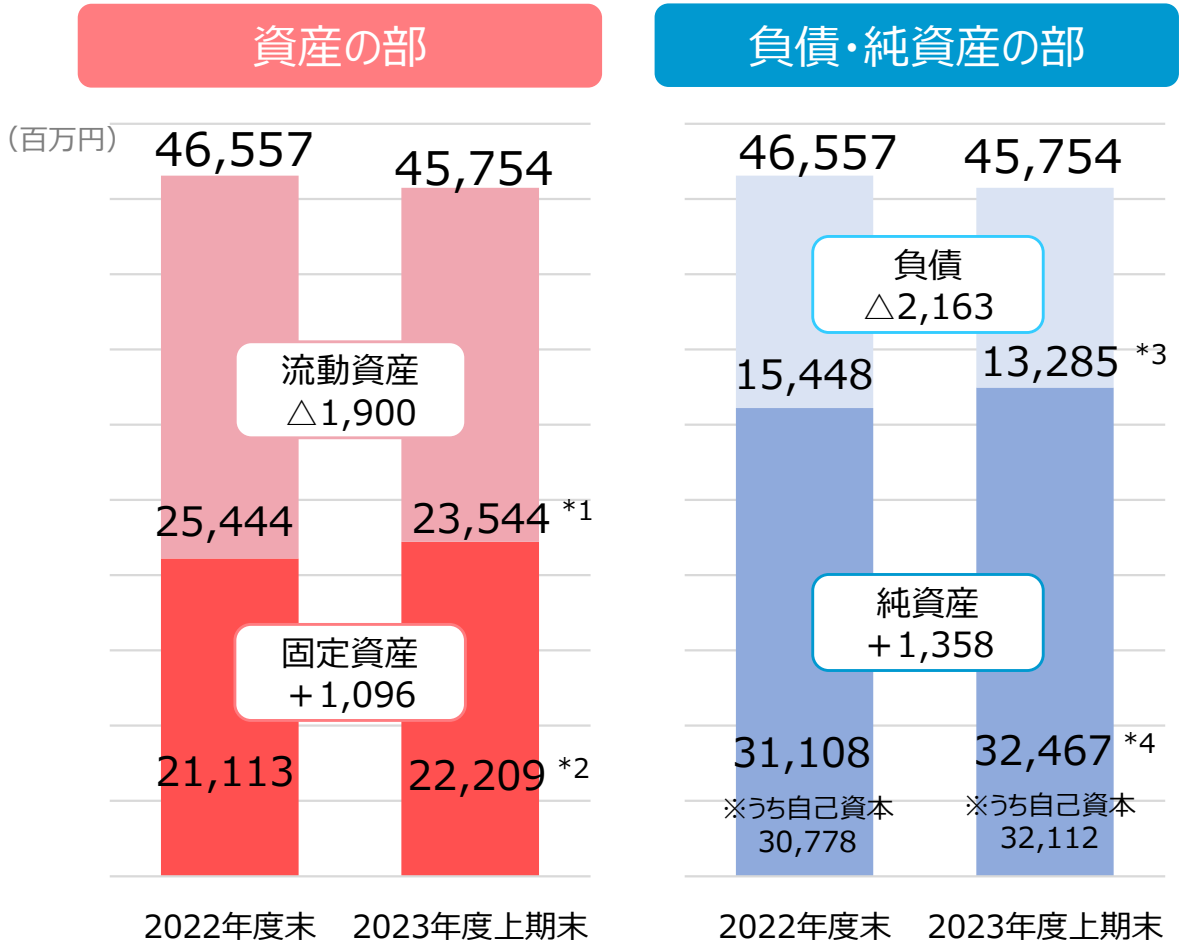
前年度実績比　**▲396百万円（▲35.3%）**

項目		2022年上期	2023年上期
		実績	実績
為替レート	円/＄	123	135
国産ナフサ	万円/kL	6.26	6.95



Ⅰ.2023年度第2四半期決算（連結）貸借対照表

財務健全性を維持しつつ、資本効率を意識した戦略的な財務経営を実施



*1 主な変動	*2 主な変動	*3 主な変動	*4 主な変動
受取手形及び売掛金 -1,824	有形固定資産 +882	支払手形及び買掛金 -1,500 短期借入金 -805	利益剰余金 ＋699 為替換算調整勘定 ＋589

財務健全性

- **自己資本比率 70.2%**（＋4.1pt）
- **D/Eレシオ 0.17倍**（△0.03pt）

外部資金の有効活用

- **借入金 5,437百万円**（△781百万円）
- **現預金、貸付金 5,113百万円**（＋291百万円）

Ⅰ.2023年度第2四半期決算（連結）キャッシュ・フロー

営業活動による資金の獲得増、投資活動による資金の支出減により、
フリーキャッシュ･フロー（営業CF＋投資CF）がプラス回復

(百万円)		2022年度（1-6月）	2023年度（1-6月）
営業活動によるCF	税金等調整前四半期純利益	1,744	1,219
	減価償却費	635	778
	法人税等の支払額	▲572	▲203
	運転資本の増減額(▲は増加)	431	584
	為替差損益（▲は益）	▲469	▲344
	その他	▲420	▲381
	計	**1,349**	**1,654**
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出	▲1,807	▲814
	短期貸付金の純増減額(▲は増加)	373	32
	その他	▲34	▲378
	計	**▲1,468**	**▲1,160**
	（小計）フリーCF	**▲119**	**493**
財務活動によるCF	短期借入金の純増減額(▲は減少)	2,598	▲805
	連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	▲1,999	-
	配当金の支払額	▲243	▲242
	その他	▲60	▲53
	計	**294**	**▲1,101**
現金および現金等価物に関わる換算差額		813	553
現金および現金等価物の増減額		989	▲54
	現金および現金等価物の期首残高	2,762	3,476
	現金および現金等価物の期末残高	**3,752**	**3,422**

Ⅱ. 事業別動向 セグメント別概況

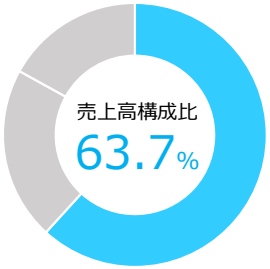
価格転嫁の進展や原料市況の軟化により利益は回復基調。下期は需要回復を適確に捉える

製紙用薬品事業

主な製品

紙力増強剤
サイズ剤
家庭紙用薬品

売上高	97億 67百万円	前年同期比 5.8%
セグメント利益	4億 38百万円	前年同期比 0.6%



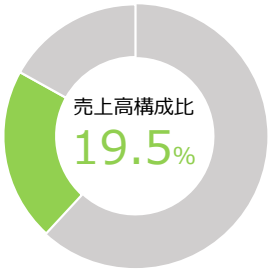
- 市況悪化で国内苦戦も海外堅調で、販売数量は微増。値上げも寄与し、増収。
- 償却費増を、販売数量増・製品値上げでカバーし、営業利益はほぼ横ばい。

樹脂事業

主な製品

印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂
粘着剤

売上高	29億 93百万円	前年同期比 15.3%
セグメント利益	12百万円	前年同期比 92.9%



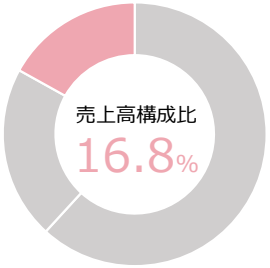
- 国内では印刷インキ用樹脂、中国では粘着剤の市況悪化で減収。
- 大幅減益も、2Qから中国・台湾での粘着剤需要が復調。

化成品事業

主な製品

機能性モノマー・
オリゴマー
機能性溶剤

売上高	25億 68百万円	前年同期比 19.1%
セグメント利益	4億 49百万円	前年同期比 34.1%



- 主に欧米での市況悪化で減収。1Q後半から中国は回復傾向。
- 売上高の減少で減益。高い利益率を維持。
- 大型設備投資が進展。

Ⅱ. 事業別動向 製紙用薬品事業

第2四半期実績				
(百万円)	2022年度	2023年度	増減	増減率
売上高	9,229	9,767	+537	+5.8%
営業利益	441	438	▲2	▲0.6%
営業利益率	4.8%	4.5%	-	-
減価償却費	346	448	+102	+29.6%
EBITDA	787	887	+99	+12.7%

通期			
2022年度 実績	2023年度 見通し	増減	増減率
20,033	21,850	+1,817	+9.1%
828	1,220	+392	+47.3%
4.1%	5.6%	-	-
807	900	+93	+11.4%
1,635	2,120	+485	+29.6%

2023年度第2四半期実績

売上高

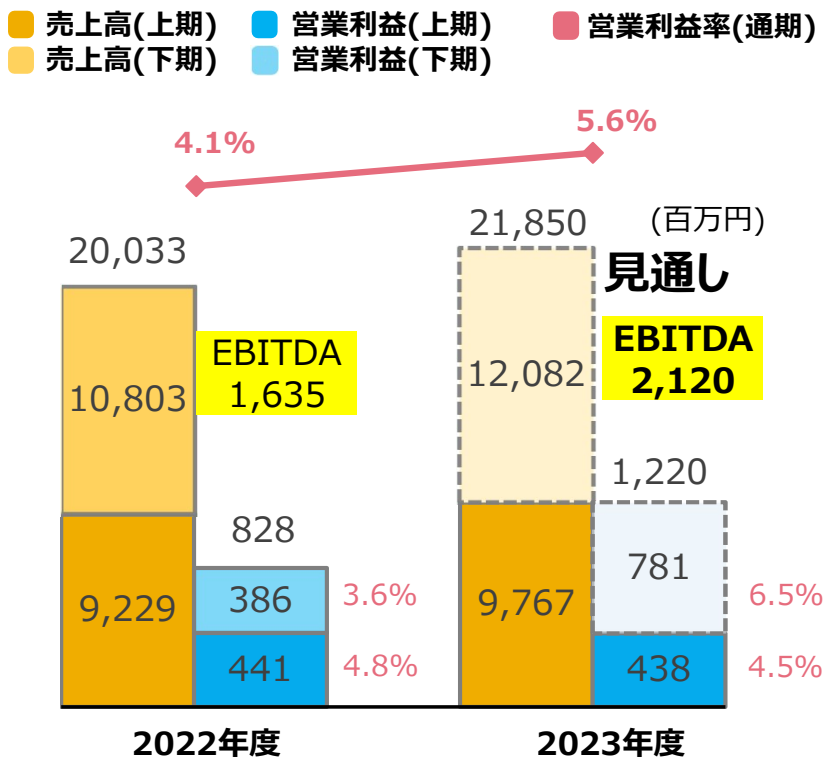
国内は紙・板紙の需要減少の影響を受けたものの、海外堅調で全体での販売数量は微増。国内の値上げの進展も寄与し、増収。

セグメント利益

ベトナム工場の稼働開始に伴う減価償却費増加を、販売数量増、および原料価格上昇に対応した製品価格への転嫁でカバーし、ほぼ横ばい。EBITDAは13%増加。

2023年度通期見通し

昨年度第4四半期を底に、四半期ベースでの利益は回復傾向。引き続き、日本での需要回復を適確に捉えるとともに、中国・東南アジアなど海外での拡販を進め、通期での増収・増益を見込む。



Ⅱ. 事業別動向 樹脂事業

第2四半期実績				
(百万円)	2022年度	2023年度	増減	増減率
売上高	3,532	2,993	▲539	▲15.3%
営業利益	179	12	▲166	▲92.9%
営業利益率	5.1%	0.4%		
減価償却費	173	170	▲2	▲1.4%
EBITDA	352	183	▲169	▲48.0%

通期			
2022年度 実績	2023年度 見通し	増減	増減率
6,888	7,610	+722	+10.5%
353	460	+107	+30.1%
5.1%	6.0%		
359	410	+51	+14.0%
713	870	+157	+22.0%

2023年度第2四半期実績

売上高

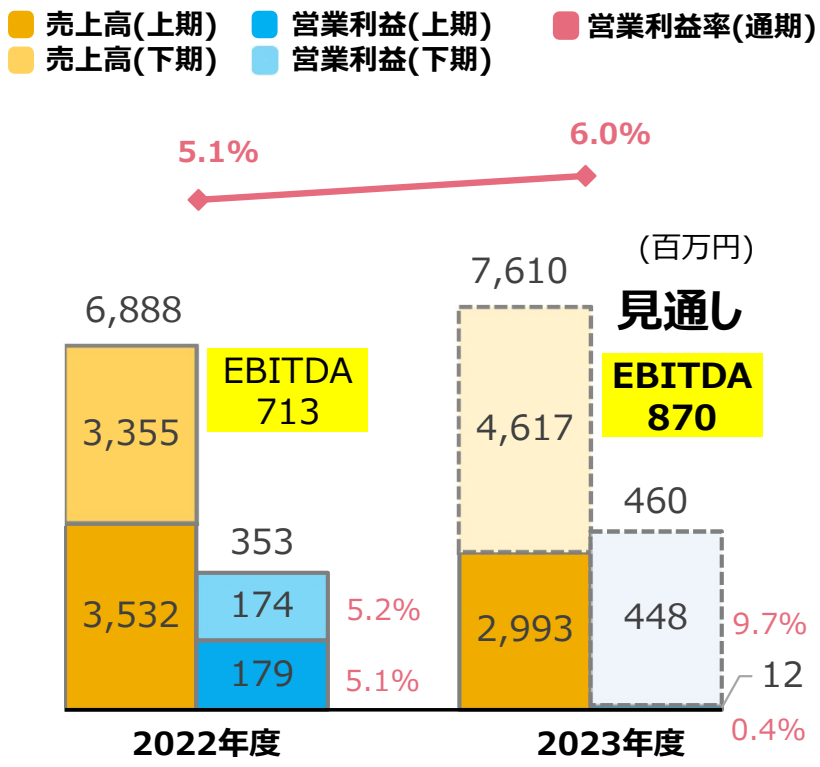
国内印刷インキ市場の縮小継続による印刷インキ用樹脂の需要減、及び中国の景気回復の遅れに伴う粘着剤の需要減による販売数量の減少に対し、製品ポートフォリオ変革に努めたが、減収。

セグメント利益

売上高の減少に対し、原燃料価格上昇分の製品価格への転嫁や、製造経費の低減等に努めたが、大幅減益。

2023年度通期見通し

第2四半期より中国・台湾の粘着剤需要が復調し、販売数量も回復しつつある。第3四半期以降も引き続き需要回復を適確に捉えることで、通期での増収・増益を目指す。ＵＶ硬化型粘着剤の更なる拡販や製品ポートフォリオ変革にも引き続き注力。



Ⅱ. 事業別動向 化成品事業

第2四半期実績				
(百万円)	2022年度	2023年度	増減	増減率
売上高	3,176	2,568	▲607	▲19.1%
営業利益	682	449	▲232	▲34.1%
営業利益率	21.5%	17.5%		
減価償却費	99	130	+30	+30.2%
EBITDA	782	579	▲202	▲25.9%

通期			
2022年度 実績	2023年度 見通し	増減	増減率
5,497	5,820	+323	+5.9%
1,043	710	▲333	▲32.0%
19.0%	12.2%		
218	560	+342	+156.6%
1,261	1,270	+9	+0.7%

2023年度第2四半期実績

売上高

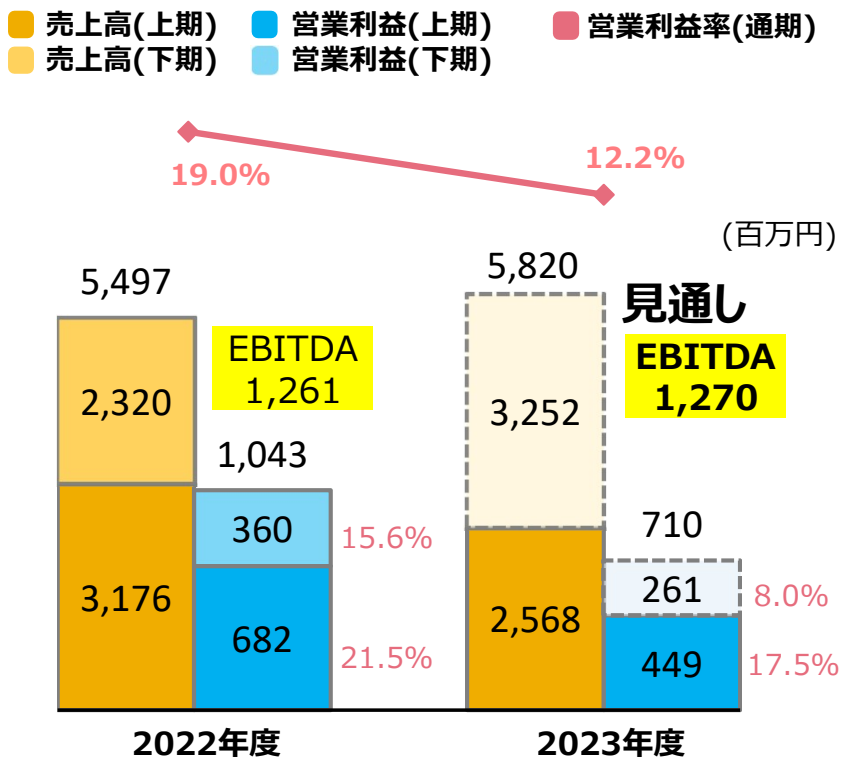
主に欧米での景気減速の影響を受け、販売数量が減少し、減収。
第1四半期後半より中国の需要環境に持ち直しの兆しが出てきており、
昨年下期を底に販売数量および売上高は回復傾向。

セグメント利益

売上高の減少に伴い、前年同期比では減益も、高い利益率を維持。

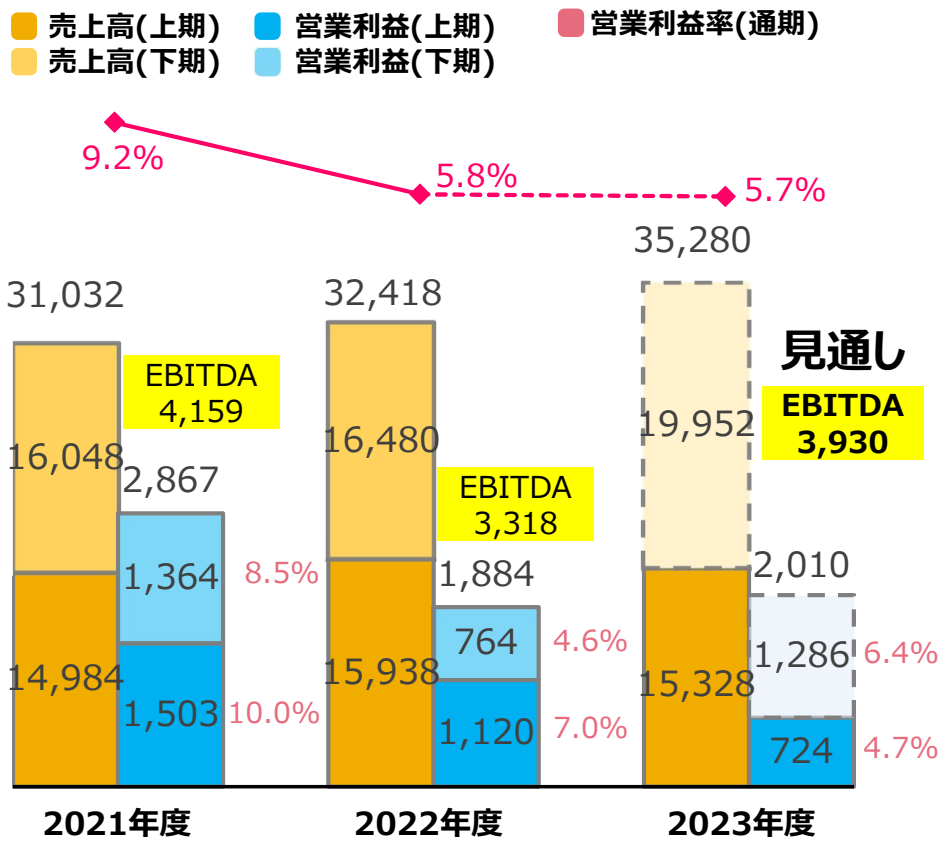
2023年度通期見通し

生産性や品質向上のための大型設備投資に伴う減価償却費増は
あるものの、引き続き海外での需要回復を適確に捉えるとともに、
機能性モノマーや需要が急拡大しているアミド溶剤Kohshylvent®
の拡販を強化することで、増収および利益の上積みを目指す。



Ⅲ.2023年度 通期業績見通し（連結）

（百万円）	2022年度	2023年度		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	32,418	35,280	+2,862	+8.8%
営業利益	1,884	2,010	+126	+6.7%
営業利益率	5.8%	5.7%	－	－
経常利益	2,394	2,160	▲234	▲9.8%
当期純利益	1,647	1,550	▲97	▲5.9%
減価償却費	1,434	1,920	+486	+33.9%
EBITDA	3,318	3,930	+612	+18.4%



売上高　：事業環境の改善に伴う販売数量の増加を見込むとともに、**様々な拡販施策の実施**により、期初目標通りを計画

営業利益：**設備投資に伴う償却費の増加を、拡販、価格ギャップの解消**に加えて、**一層の合理化**により吸収することで、期初目標通りを計画

EBITDA：期初目標通り**2021年度に近い水準までの回復**を図る

Ⅳ. 中期経営計画「OPEN 2024」基本方針とトピックス

OPEN 2024

Change ～VISION 2030達成に向けた土台作りのための変革と挑戦～

基本方針

ポートフォリオ変革

- 海外（特に東南アジア）への積極展開
  新体制による展開加速で
  海外売上高比率40%以上へ
- 新事業の足場固め
  ＣＮＦ、銀ﾅﾉﾜｲﾔ、その他開発品の事業化進展
- 国内事業基盤の強化
  製品ポートフォリオ変革、生産体制再構築

ＥＳＧ経営の推進

- ＧＨＧ排出量削減計画の実施：
  エネルギー基盤強化
- ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ委員会の設置と運営
- New Green Index：130以上

- 人財育成・組織づくり
- ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）

(億円)	2022年度	2023年度	2024年度
	実績	見通し	中計目標
売上高	324	352	390
営業利益	18.8	20.1	37.5
EBITDA	33.1	39.3	57.5
海外売上高比率	29%	31%	40%以上
New Green Index*	108	118	130以上

＊ 当社環境戦略製品の売上指標(2021年の当該製品売上高を100として指数化)

【目標達成のため、取組みを加速させる】

- 製紙用薬品事業:海外売上高拡大(ベトナム工場)
- 樹脂事業:製品ポートフォリオ変革、粘着剤拡販
- 化成品事業:大型投資効果(生産能力・収益性向上)、アミド溶剤Kohshylvent®の拡販
- 環境戦略製品のラインナップ拡充
- 新事業構築の足場固め(ナノファイバー事業強化)

Ⅳ.「OPEN 2024」：トピックス①

バイオフィルムコントロール剤（BFC剤）がテレビ放映後、問い合わせ増。
医療機器業界に続き、他業界でも採用間近の案件が複数あり。
新製品展開で新たな市場を狙う。

日本テレビ「カズレーザーと学ぶ。」で当社BFC剤が紹介

バイオフィルム対策の最新研究としてBFC剤が紹介され、複数の新規問い合わせに繋がった

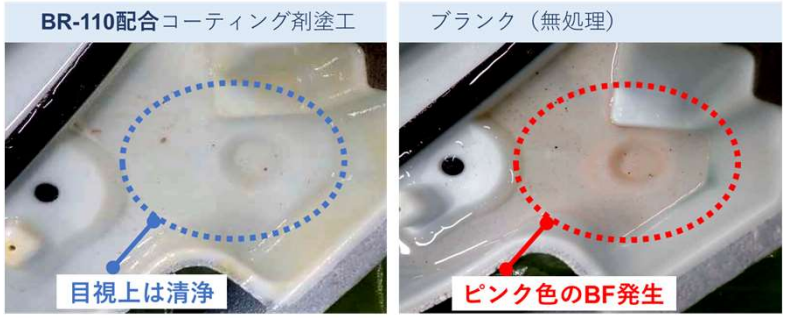
【1号案件】

医療機器
洗浄剤用途

ニューロシューティカルズ社
との共同開発

需要家での効果発現を確認済み。複数案件で採用間近の、コーティング剤配合用途

- 複数の案件で実使用でのBF抑制効果を確認
- 水回りコーティング剤への配合用途で今期中、複数案件の採用を狙う



【用途イメージ】
空調機器内部の結露水対策、
風呂・トイレ・キッチンなどの水回り向け

食品添加物で構成されるBFC剤、BR−201、BR−202を新たにラインナップ

- アメリカ食品医薬品局（FDA）の食品添加物ポジティブリストに収載の物質から構成
- 食品加工工場や温浴施設、口腔内ケア用途など、さらに幅広い用途展開が可能に

Ⅳ.「OPEN 2024」：トピックス②

脱プラスチック・紙化に貢献するSEIKOAT®は、実機テストが進行中。
中国の展示会に出展し、グローバルな需要の取り込みを目指す。

SEIKOAT®

- 紙に塗工することで、各種包材に必要な耐水性、耐油性やヒートシール性等を付与
- プラスチックパッケージから、紙パッケージへの代替を可能に

アクリルタイプ

ポリエチレンラミネートを使用しない、SEIKOAT®を利用した紙カップを試作製造。
中国包装容器展で紹介し、中国、東南アジア地域への展開を進める。

バイオマスタイプ

T-EF201が、有機フッ素系耐油剤の代替として耐油紙を中心に実機テスト進行中。2024年度中の実用化を目指す。

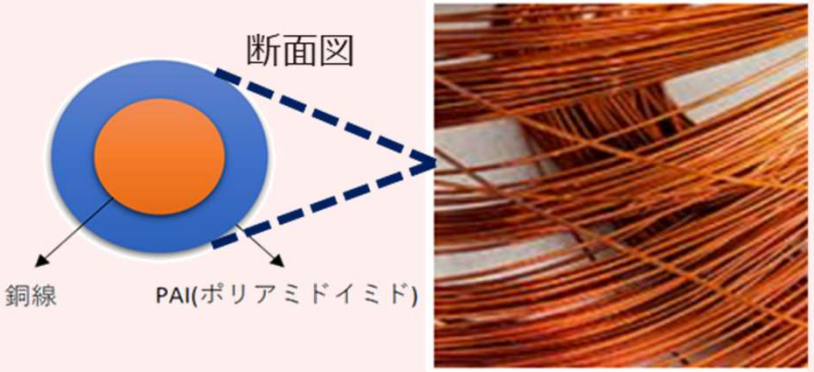
7/12-7/14「中国包装容器展」参加の様子

Ⅳ.「OPEN 2024」：トピックス③

低毒性なアミド溶剤«Kohshylvent®»の拡販が進展。
環境・安全ニーズに対応したバイオマスモノマーを市場投入。

「Kohshylvent®」シリーズの拡販進展

- 生殖毒性のないアミド溶剤「**Kohshylvent®**」が進展。
- EVや半導体分野等で、既存の溶剤の代替を目指して営業活動を継続中。
- **さらなる設備投資**で生産体制を強化予定。



イメージ：EVモーター用のエナメル線
（耐熱・絶縁用樹脂のPAIを溶解して塗布）

カーボンニュートラルの流れに対応したバイオマスモノマー「NOAM」展開

- 展示会にて、開発品「Kohshylmer NOAM™」を紹介。バイオマス比率が高く、皮膚刺激性なし。
- 溶解性、各種基材への密着性を持つ。顔料分散性向上効果も期待され、インキ用途などでバイオマス化の検討が進捗。

➡ 世界的な環境・安全志向の高まりに応える製品投入で、お客様の製品の付加価値向上に貢献

Ⅳ.「OPEN 2024」：トピックス④

当社**STARCEL®**を生かした日用品が販売開始

用途展開を加速

- 吉川国工業所様と当社の協業により開発されたCNF配合樹脂がベス工業様の旅行用コンパクトブラシに採用。

- 自動車部材用途では、2026～2030年ごろの実用化に向けて、提案・検討が進行中。

Ⅳ.「OPEN 2024」：ＥＳＧ経営の推進

KJケミカルズ EcoVadis調査にてゴールドを2年連続受賞

EcoVadis社は、170カ国以上の国で、10万社以上の企業のサステナビリティを客観的に評価する信頼性の高いプラットフォームを提供。「ゴールド」評価は上位5%以内の企業が獲得。

環境問題に関する高水準のマネジメントシステム等が評価され、2年連続受賞。

環境・社会のサステナビリティへの取組み

- グリーン電力購入比率アップ

2023
48%（見込み）

2022
24.4%

※GHG排出量の削減
前年比　**1,800t-CO_2**相当

（CO_2排出係数は2022年係数使用、2023年の契約電力会社の平均値）

- サステナビリティ調達ガイドライン策定

ステークホルダーコミュニケーションの強化

- 社外報SEIKO PMC Plus Vol.3を発行（5月）
- PR Times（プレスリリース配信サービス）、SNSを活用したPR活動を継続
- HPの更新頻度の向上・当社記事の掲載を含むHPの内容充実
- 決算説明会の書き起こし（logmiファイナンスの継続利用）

➡ プライム市場上場維持基準適合に向け、ステークホルダーコミュニケーションを今後も強化

おわりに

エコテクノロジーで未来を創る

“Explore the Future through Eco-friendly Technology”

当社へのご質問等は

e-mail：ir@seikopmc.co.jp

TEL ：03-6202-7331

までお問い合わせください。

＜予想に関する注意事項＞
・本資料では情報の提供を目的としており、勧誘行為を行うものではございません。
・業績見通しは現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、
実際の売上高および利益は、記載している予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
・当社は業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。
ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
・本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負う
ものではございません。

Appendix

- 事業内容
- 当期の事業環境
- ROE・株主還元
- 設備投資および研究開発費

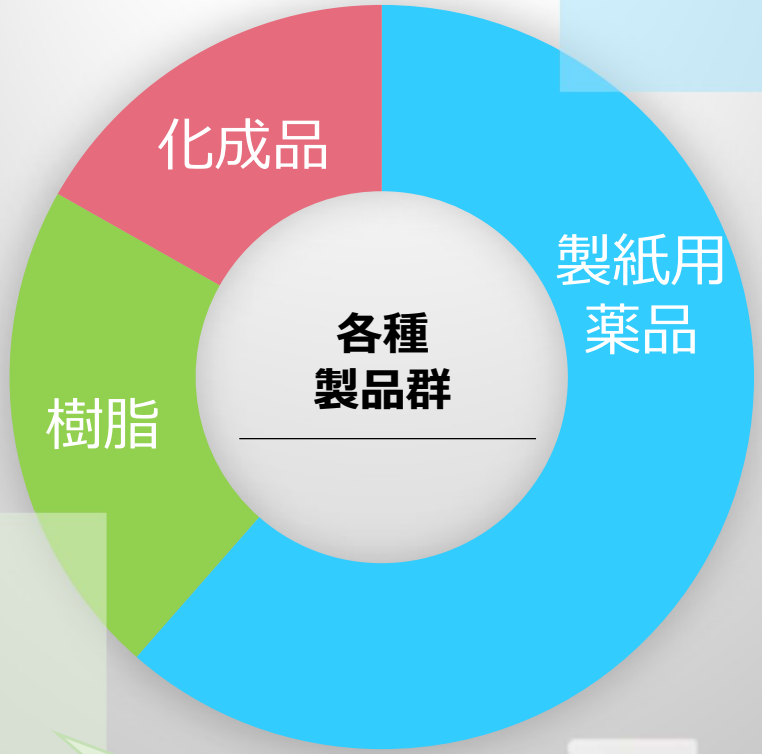
Appendix-Ⅰ.事業内容

各種機能性モノマー　Kj ケミカルズ株式会社

- UVコート剤・インキ
- 水系塗料、製紙用薬品
- 粘・接着剤
- 石油掘削用ポリマー
- 化粧品、電子材料 他

紙力増強剤/サイズ剤/家庭紙用薬品/製紙用補助薬品

- 紙：新聞用紙、印刷・情報用紙、家庭紙 他
- 板紙：段ボール原紙、紙器用紙 他



各種印刷インキ用樹脂 /記録材料用樹脂

- フレキソ・グラビア・オフセットインキ
- LBPプリンター用トナー　他

粘着剤

- 工業用両面テープ　他

セルロースナノファイバー

- ランニングシューズ素材　他

キチンナノファイバー

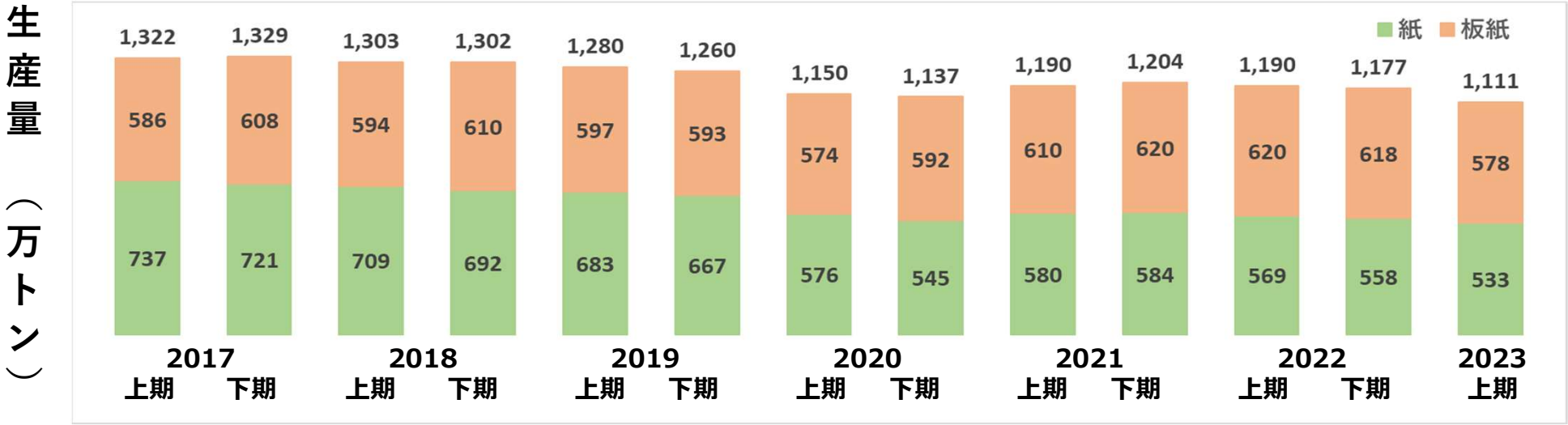
- ヘルスケア
- ペットケア用品

Marine Nano-fiber

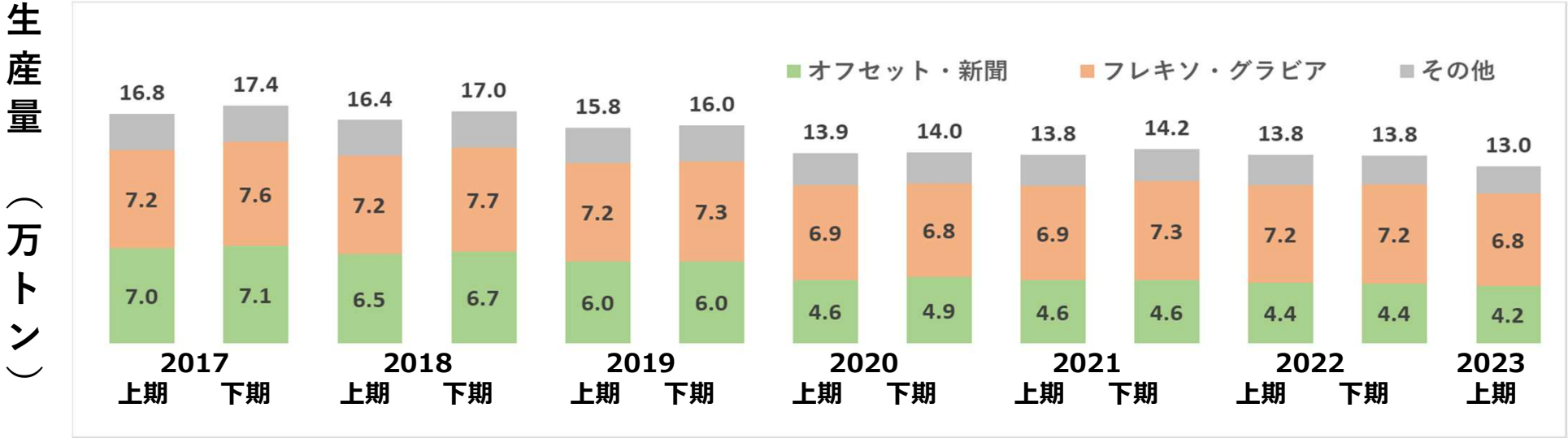
2023年
グループ化

Appendix-Ⅱ.当期の事業環境（国内:紙・板紙および印刷インキ生産量）

・2023年上期の国内紙・板紙生産量は1, 111万トン(前年同期比▲6.6%)と減少
・紙生産量は533万トン(同▲6.4%) と減少傾向、堅調だった板紙生産量も578万トン(同▲6.8%）と減少した

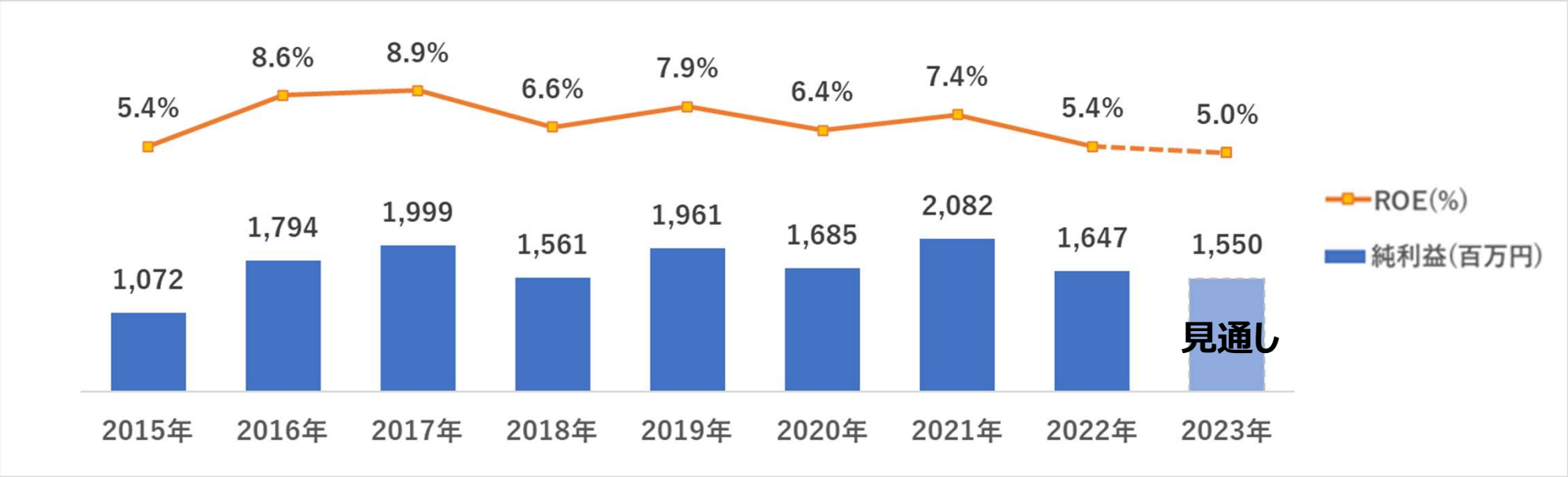


・2023年上期の国内の印刷インキ生産量は13.0万トン(前年同期比▲6.1%)と減少
・オフセット・新聞インキは4.2万トン(同▲5.5%)と減少傾向、堅調だったフレキソ・グラビアも6.8万トン(▲5.1%)と減少した

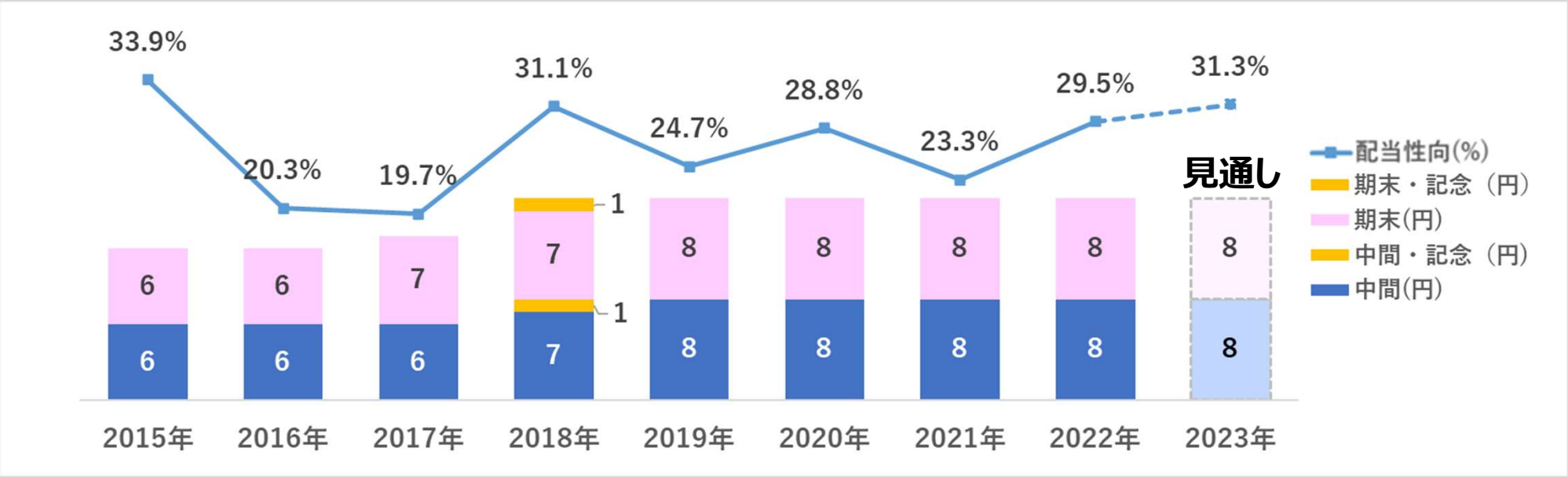


Appendix-Ⅲ. ROE・純利益・株主還元

ROE/純利益



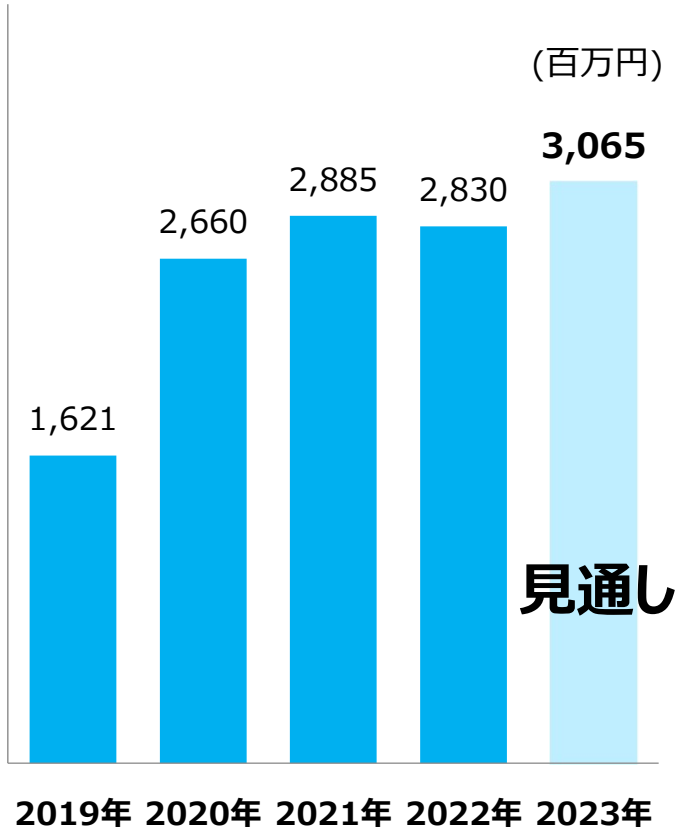
株主還元



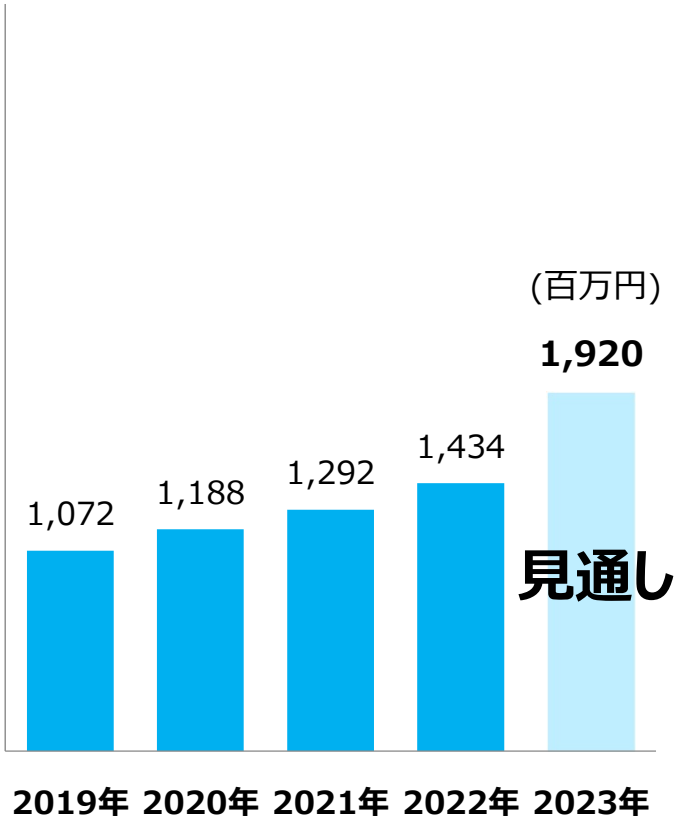
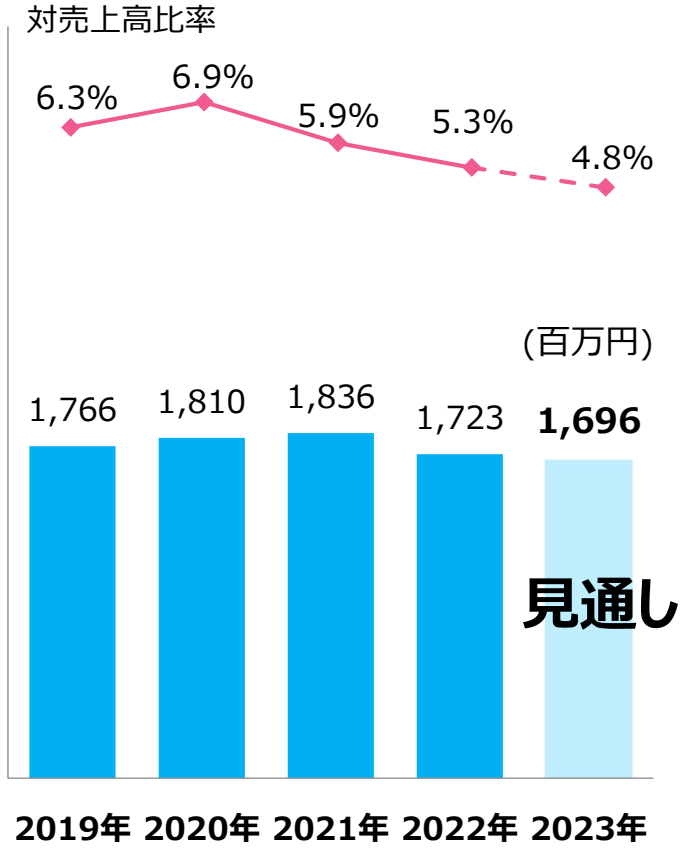
Appendix-Ⅳ. 設備投資および研究開発費

2023年計画
- 設備投資額は、KJケミカルズの投資を中心に国内外で31億円弱を計画
- 減価償却費として19億円強を見込む(製紙用薬品[ベトナム]+1.6億円、KJｹﾐｶﾙｽﾞ+3.2億円)
- 研究開発費は17億円弱を投じる

設備投資額



減価償却費



研究開発費